

# 林修先生と学ぶ「国消国産」講座

日本で食べるものは、日本で作る

## 「国消国産」をいつしょに考えよう

なぜ今?  
国消国産

生きるために欠かせない食料は、日本で作ったほうが安心

新型コロナウイルスの感染が広がり始めたとき、マスク不足が大きな問題になりました。もしこれが食料だったら、どうなっていたでしょうか。いざという時、マスクのような工業製品は急いで作れます、農地を耕し、自然と調和しながら、長い年月をかけて育まれる農畜産物は、不足したからといってすぐに作れるわけではありません。



JAグループサポーター・林修

### 日本の「食」をとりまく5つのリスク



食料自給率の低迷  
食料の多くを輸入に頼り続けている



農業生産基盤の弱体化  
農家の減少と高齢化、農地の減少が進む



自然災害の多発  
世界と日本の農業が多くの災害に直撃される



世界的な人口増加  
世界の人口増加で食料不足が懸念される



国際化の進展  
輸入増加で食料自給率低下の可能性がある

### 日本の「食」は 今さまざまなりスクに直面

今、日本の食料自給率は38%\*です。つまり食料の約6割を輸入に頼っているのです。その大きな要因は、農家の減少や高齢化など、生産基盤の弱体化です。さらに、日本も含めた世界中で自然災害が多発しています。もし、日本が多くの食料を輸入している国で自然災害などが発生し、食料生産が大幅に減少したら、日本の食生活にも多大な影響を及ぼしかねませんが、食料の輸入は増加しているのです。さらに、今後も世界的な人口増加が予測される中、日本ではこれから先ずっと、食料を輸入し続けられるのかという懸念もあります。このように、日本の「食」は、多くのリスクに直面しているのです。

\*カロリーベース 2019年 農林水産省による

だから今!  
国消国産

### 「国消国産」で、「食」の安心を次の世代に

そのようなリスクにさらされている中で、JAグループは、「国」民が必要とし「消」費する食料は、できるだけその「国」で生「産」する、「国消国産」という考え方を提起しました。私たちの毎日の「食」の安心はもちろん、子どもや孫たちの世代にまで、この日本という土地で豊かな実りが絶えることのないように、おいしい食卓を囲む笑顔が絶えることのないように、「国消国産」は、日本の「食」のこれからにとって、大きな意義をもっています。



耕そう、大地と地域のみらい。JAグループ